



シャレン!

Jリーグ社会連携

みんなの
シン・みつ
Project

シャレン! × むすびえ

大宮アルディージャ版

「みんなのシン・みつプロジェクト」



アジェンダ

- 1 大宮アルデージャについて
- 2 Jリーグのシャレン（社会連携活動）
- 3 大宮アルディージャ版
「みんなのシン・みつプロジェクト」
- 4 その他の社会連携活動



アジェンダ

- 1 大宮アルデージャについて
- 2 Jリーグのシャレン（社会連携活動）
- 3 大宮アルデージャ版
「みんなのシン・みつプロジェクト」
- 4 その他の社会連携活動



クラブ概要

CLUB OVERVIEW

OMIYA ARDIJA



アルディ

PROFILE
 生年月日 1998/12/24
 出身地 大宮公園
 性格 人懐っこい、好奇心旺盛、やさしい、勝負と勝りになる
 好きな物 オレンジとイチゴ
 趣味 サッカーとアルディーシャの応援
 好きな食べ物 どんぶり、ミーヤの手料理
 好きな歌 VAMOS! ARDIJA
 目標 アルディーシャを優勝させること

ミーヤ

PROFILE
 生年月日 2000/03/08
 性格 ぶっちょこぶい、元気いっぱい、ちよっと気が強い
 好きな物 オレンジとピザ
 趣味 料理、映画、ビデオゲーム、ダンス、アルディーシャの応援
 好きな食べ物 どんぶり、ケーキ、甘いもの全般
 アルディとNACKSスタジアム大宮で結婚式を挙げること

OMIYA ARDIJA



CLUB NAME

クラブ名の由来

ARDIJAとは「リス」を意味するスペイン語「ARDILLA(アルディーシャ)」を読みやすく表記した造語です。リスは大宮市(現さいたま市)のマスコットの存在であり、子どもから大人まで愛される存在になることを願ってつけられました。

LOGO

ロゴ

クラブのキーワードである「SPEEDY・ACTIVE・AGGRESSIVE」と、リスの特徴である「前進」の持つ鋭いイメージ・素早い動きを、技の切れ・鋭敏な動きなどと重ね合わせて、ロゴに表現しています。



EMBLEM

エンブレム

クラブ名になっている「リス」を、堅い守備力・バランスを意味するリスの尻尾に見立てた盾形に収めました。ボールから伸びる5本のストライプは、スピードに集った攻撃力と、シマリスの背中模様、さらには5山連のつづ中山道を表しています。



MASCOT

マスコット

リスをモチーフとした男の子のマスコット「アルディ」、クラブ創設時から活躍するアルディは、人懐っこくやさしい性格で、子どもたちに人気です。女の子のマスコット「ミーヤ」は、2008年にクラブ設立10周年を記念して仲間入りしました。



STADIUM

スタジアム

「NACKSスタジアム大宮」は、前身の大宮公園サッカー場時代を含めると60年有余の歴史を誇る、伝統のホームスタジアムです。最大の魅力は、観客席とピッチの近さ。選手の手づかいが聞こえるほどの距離感が、スタジアムの一体感を生み出します。



CLUB HOUSE

クラブハウス

トップチームの拠点であるクラブハウス「オレンジニュービル」は、充実したトレーニング施設と最大芝1.5面の広さを誇る練習グラウンドを併設しています。地域に根差すコミュニケーションスペースとして、開かれたクラブハウスを目指しています。



クラブ理念・ビジョン

クラブ理念

スポーツを通じて夢と感動をわかち合える、より良い地域社会の実現に貢献します。

より良い地域社会の未来を、皆さまと、ともに。

大宮アルディージャは、常に地域とともに歩む存在でありたいと願っています。

クラブビジョン



ARDIJA VISION

Be Strong

大宮のために

Be Professional

期待を超えるために

常に、覚悟を持って戦い続ける

常に、結果にこだわり責任を果たす

常に、夢と笑顔そして価値をもたらす

Be Strong

大宮のために

Be Professional

期待を超えるために

常に、覚悟を持って戦い続ける

常に、結果にこだわり責任を果たす

常に、夢と笑顔そして価値をもたらす



大宮アルディージャの社会連携活動



ARDJA VISION
Be Strong
Be Professional

より良い地域社会の実現のために クラブの取り組み

私たちの使命はプロサッカーの試合をすることだけではありません。スポーツを通じた様々な活動によって地域の発展に貢献すること、地域の皆さまに信頼いただけるクラブとなることを目指して、様々な取り組みを行っています。



クラブ理念

スポーツを通じて
夢と感動をわかち合える、
より良い地域社会の
実現に貢献します。



SDGsの取り組み

大宮アルディージャではこれまで、サッカー教室や手話応援隊、太陽光発電、地域清掃活動等、様々な活動に取り組んでおり、その中にはSDGsのゴールにつながるものも多くあります。2019年3月には大宮アルディージャ環境方針へSDGsを盛り込みました。今後も、ファン・サポーター、地域の皆さまとともに、より良い持続可能な地域社会の実現を目指します。

世の中の様々な人々が快適で、公平に暮らすことができるように、社会に貢献するための活動にも取り組んでいます。例えば、手話応援や障がい者サッカー大会の開催など(バリアフリー)のための活動や、環境保全を目的として設立した「エコクラブ」の活動、健康増進を目的とした社会貢献活動などを積極的にを行っています。

社会貢献活動



▲2008年に発足したアルディージャビジネスクラブ(ABC)は、大宮アルディージャのパートナー企業の前さまと大宮アルディージャによって創設しています

キャンプ活動



▼パートナーミーティング

29歳以下の若手社員が4社員のビジネスランチ



地元企業活性化

活気ある豊かなホームタウンを実現するためには、地域企業の皆さまとの連携は欠かせません。地元パートナーの皆さまと設立した「アルディージャビジネスクラブ(連称:ABC)」での活動を中心に、企業間の交流を深めるとともに、企業同士のビジネスマッチングを促進し、企業の皆さまの発展、ひいては地域の発展の一助となるような活動を行っています。

企業としての取り組み

大宮アルディージャはプロサッカークラブであると同時に、いち企業でもあります。地域の一人として社会的責任を全うする様々な存在であるために、クラブでは社員ならびに選手・スタッフに対する研修会や勉強会などにも力を入れています。

- コンプライアンス
 - ・Jリーグコンプライアンス研修
 - ・コンプライアンス研修
 - ・人権研修
 - ・経営幹部CSR研修
 - ・コンプライアンス、CSR委員会の開催
 - ・努力型による不当要求防止講習会
 - ・不正防止のための社員教育、研修
 - ・情報セキュリティ研修会
 - ・企業倫理研修会
 - ・税務研修
- 訓練・講習会
 - ・消防/避難訓練の実施
 - ・救命講習会
 - ・交通安全講習会
- エコ活動
 - ・環境/ISO14001認証の取得(登録番号:EC1130057)
 - ・オフィス/スタジアムにおける節電対策
 - ・SDGs研修会

トータルアドバイザー 佐々木 則夫
豊富な知見を生かしてクラブをサポート
なでしてJリーグ監督として女子ワールドカップ獲得を果たした国際的実績は、これまで培ってきた知識と経験を生かして、サッカーの普及活動、クラブの公式行事への参加、グローバル推進事業への協力など、幅広い活動でクラブ運営をサポートしてまいります。また、今年から新設された女子チーム「大宮アルディージャVENTUS」の総監督に就任し、WEリーグに参戦します。

クラブアンバサダー 塚本 泰史
いざ、10年目のシーズンへ
塚本泰史クラブアンバサダーは、2012年に現職に就任してから今年で10年目を迎えました。2016年からはクラブスタッフとしてホームタウン担当も務めています。自身も選手がたがと選手たちに、少しでも貢献がしたいという思いを持ちながら、クラブ公式行事への参加、ホームタウン活動、クラブの広報活動など、今シーズンもクラブアンバサダーとして活動します。

街の活気は、そこに暮らす人々の元気や笑顔を生み出します。いちサッカークラブとしてサッカーの試合を通して皆さまに笑顔を届けることと同様、地域の一端として街のために尽くすことは、大切な活動であると考えています。クラブではこれからは、地域の皆さまと一体となって街づくりに取り組み、街を魅力にあふれ、活気あるものにするための活動を継続していきます。

地域振興活動



▲ホームタウンである大宮の街を、美しく、少子化対策の取り組み、環境による安心・思いやりから生まれた「グリーン大宮」という活動は、2004年より継続的に行われています。2020年は新型コロナウイルス感染症による政府の緊急事態宣言を受けるとともに実施した。

▼ワンストップ

ホームゲームで各店を盛り上げる応援隊



▲地域のお祭りに参加

▼ゴータでのサッカー教室



▲2014年に結成した東南アジア諸国でのサッカー教室は、ラオス、ベトナム、インドネシア、フィリピン、タイ、カンボジア、ミャンマー、タイの7カ国で、合計166回実施されます

▲スポーツ関係として初めて「南米プロバレーボール協会」

▲JICAなどの支援により「プロバレーボール協会」



▲JICAなどの支援により「プロバレーボール協会」

▲JICAなどの支援により「プロバレーボール協会」



▲子どもたちに、サッカーの楽しさやスポーツの素晴らしさを伝えるべく、子どもたちに、普及のコーチ、選手、監督が小学校や児童館を訪問するスクールキャラバン中。国内各地でのサッカー教室を定期的に実施しています

少年少女サッカー教室

▼地元少年団の合同早稲刈り



育成・普及活動

地域に育ち、地域とともに歩む「子どもたち」は、将来この地域の未来を担う大切な対象です。クラブでは子どもたちに、健康な体と健全な心が育まれるよう、活動を行っています。トップチームで活躍する選手の育成はもちろん、スポーツを中心とした様々な活動を通じて地域教育の一部を担うことで、子どもたちの明るい未来づくりに貢献していきます。

大宮アルディージャでは、「国際社会における交流および親善への貢献」というJリーグの理念に基づき、2014年より東南アジア諸国でのサッカー教室開催などの国際交流、社会貢献活動を継続的に実施しています。今後もスポーツを通じた様々な活動によって地域の発展に貢献し、子どもたちの笑顔、未来のために、国際的な交流活動を積極的に実施していきます。

国際交流活動



トータルアドバイザー 佐々木 則夫



アジェンダ

- 1 大宮アルデージャについて
- 2 Jリーグのシャレン（社会連携活動）**
- 3 大宮アルディージャ版
「みんなのシン・みつプロジェクト」
- 4 その他の社会連携活動



シャレン! (社会連携活動) とは?

広がる社会連携

Jリーグをつかおう!

Jリーグは1993年5月15日に開幕してからことしでちょうど25周年を迎えました。

全国に豊かなスポーツ文化をつくりたいと願いをこめた「Jリーグ百年構想」はJリーグ54クラブによる年間18,000回を超えるホームタウン貢献活動で地域にその意思を示しました。しかし、リーグ役員と全クラブ社長が集う会議で、クラブから挙げたのは「地域のための活動を精一杯やっているものの、サッカーの外側にいる人たちにはあまり届いていない」「確かな指標や覚悟がもてないまま、これからの25年に向かってよいのか?」という声でした。長い時間をかけて話し合った結果、私たちだけで進める活動よりも、スポーツやクラブそれぞれの特性を地域の人たちに伝えて、一緒につかってもらおう。「交換モデル」から「共創モデル」に移行しよう、という結論に至りました。

そうして誕生したのが「Jリーグをつかおう!」という言葉です。



2018年5月14日、Jリーグ25周年を迎える前日。単なる記念式典ではなく、百年構想の次の紡ぐ未来志向の会にしようと考え、全国から集まったJクラブ、市民300名と「未来共創ワークショップ」を行いました。会場には、ソーシャルワーカー、クラブの社長、現役選手、ホームタウン担当、主婦、学生、企業の方など、地域を豊かに

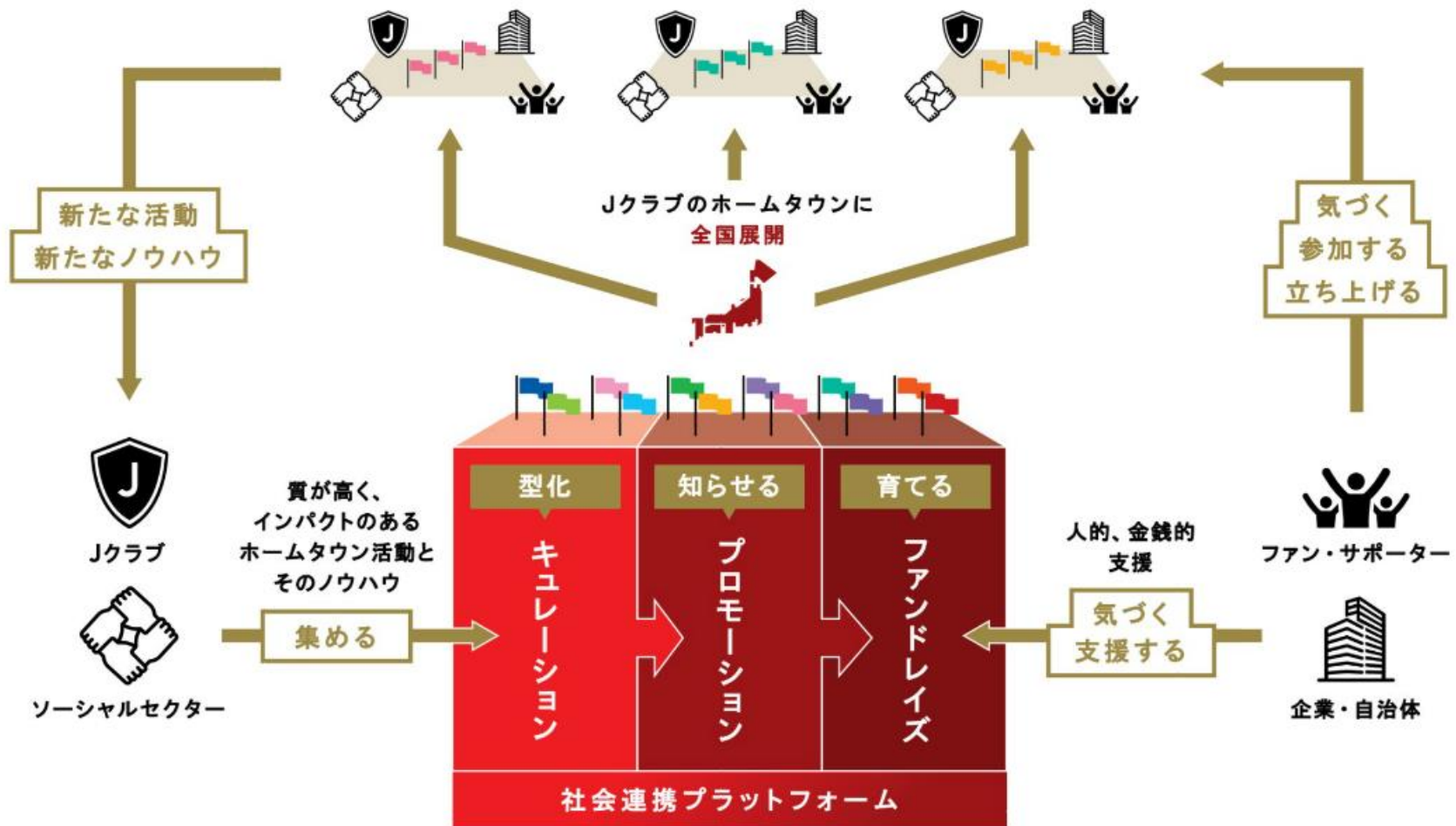
したいと願う、様々な人たちが集まりました。プロのファシリテーターの進行で、50のテーブルに分かれ、各々が実現したい未来と、自分の持っているアイデアとアセットを見せ合い、交換しながら、最後に「地域を豊かにする、Jリーグをつかった57のアイデア」にまとめあげました。



シャレン! (社会連携活動) とは?

▶ Jリーグシャレン構想

もっと、幸せな、国へ。
全国のホームタウンで、社会を育む活動を。



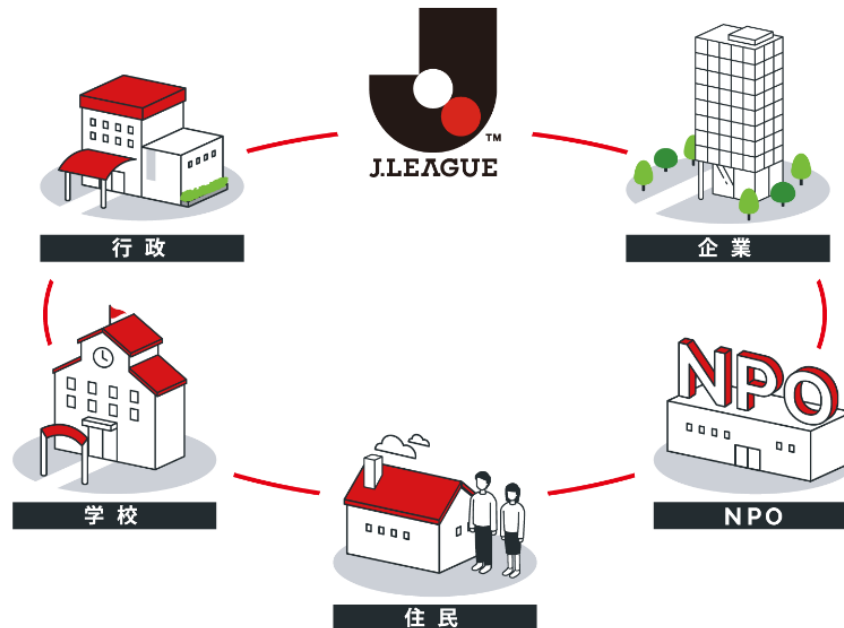


シャレン! (社会連携活動) とは? ※JリーグHPより抜粋

シャレン! = 社会的テーマ + 3者以上の連携
Jリーグ社会連携



社会課題や共通のテーマ(教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など)に、
地域の人・企業や団体(営利・非営利問わず)・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して、取り組む活動です。





シャレン! (社会連携活動) とは?

※ Jリーグ資料より抜粋

共通のテーマ



3者以上の協働

ダイバーシティを体感する

教育をもっと面白く!

健康でいきいきと!

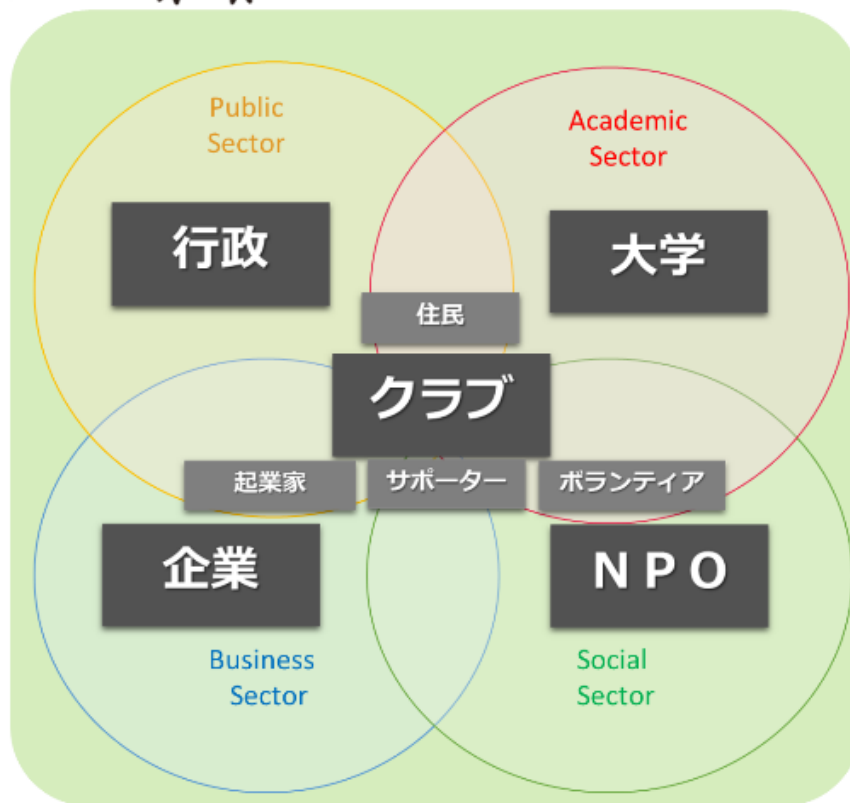
多世代交流

子供の貧困

農業

防災

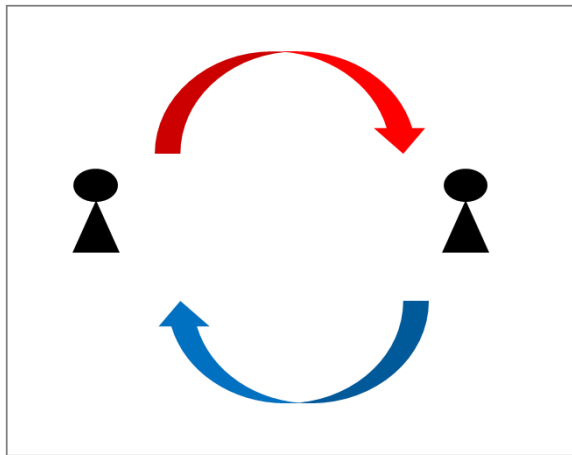
環境





ホームタウン活動

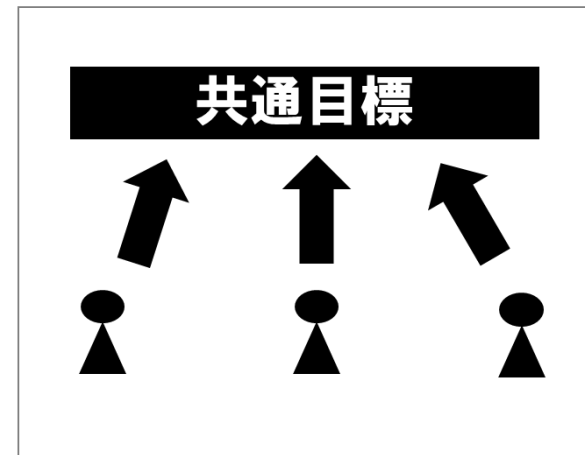
交換



交換するものに
価値がある
※等価交換を求めがち

チャレン!

共創



プロセスからの
学びと成果に
価値がある



シャレン! (社会連携活動) のねらい

※Jリーグ資料より抜粋



理念の具現化

こういう社会を創りたい! という想い
シャレンでは、この具現化を優先事項とする



ブランド化(企業価値を高める)

● 地域の信頼
(ベース獲得)



● 仲間づくり
(知恵、労力確保)



● 関わる人の成長

● スポンサー獲得の
要素に



● 既存ファンの
ロイヤリティ向上



● タッチポイント増

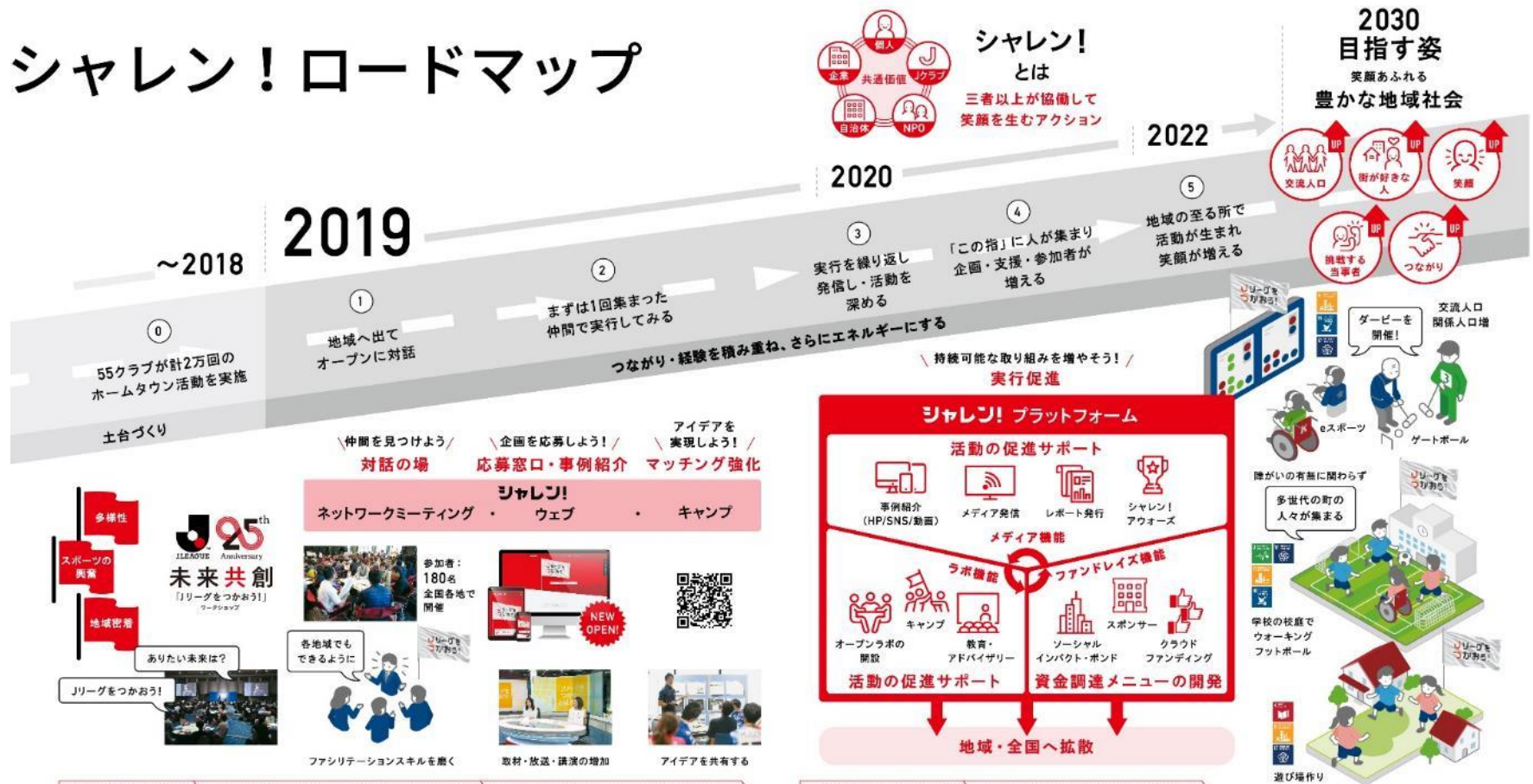


● 選手の間人カ形成
言語カUP





シャレン! ロードマップ



ホームタウン活動例



FC東京
遠隔ロボット
オリヒメ

未来共創ワークショップから生まれた活動例



鹿児島ユナイテッドFC
スタジアムde強固
(こども教育)
©KAGOSHIMA UNITED FC



ヴァンフォーレ甲府
キャリスタ
(地域の産業活性)
©VFC

Jクラブのシャレン! 活動例



ベガルタ仙台
(最速運送)
提供: ベガルタ仙台



川崎フロンターレ
大分トリニータ
(ユニバーサルツーリズム)

Jクラブのシャレン! 活動



Y.S.C.C.横浜
(FOOTBALL×SDGs)
©Y.S.C.C.



アスルクラロ津
防災マップ作り
提供: アスルクラロ津



川崎フロンターレ
弱笑かるた
©KAWASAKI FRONTALE



詳しくはシャレン!ウェブへ

- 1 大宮アルデージャについて
- 2 Jリーグのシャレン（社会連携活動）
- 3 大宮アルディージャ版
「みんなのシン・みつプロジェクト」**
- 4 その他の社会連携活動



みんなのシン・みつProject

みんなの
シン・みつ
Project

シャレン! × むすびえ

プロジェクトの目的

“三密回避”の風潮によって、密（＝つながりやぬくもり）が失われている今、

“密”が好きな子どもから、おとなまで、一緒になり

スポーツの力、Jクラブの力をつかって、

子ども食堂を通じた新しい密（シン・密）を地域に共創する



子ども食堂とは ※引用：NPO法人むすびえ様資料より

こども食堂 = 地域交流拠点 × 子どもの貧困対策



山口県宇部市・みんなの食堂



こども食堂とむすびえ

■こども食堂

地域食堂、みんなの家などという名称にかかわらず、子どもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂。

「子どもの貧困対策」と「地域交流拠点」の2つの大きな軸があり、制度の裏付けはないが、箇所数は3,718（2019.6発表、むすびえ、地域ネットワーク団体調べ）あることが明らかになっている。

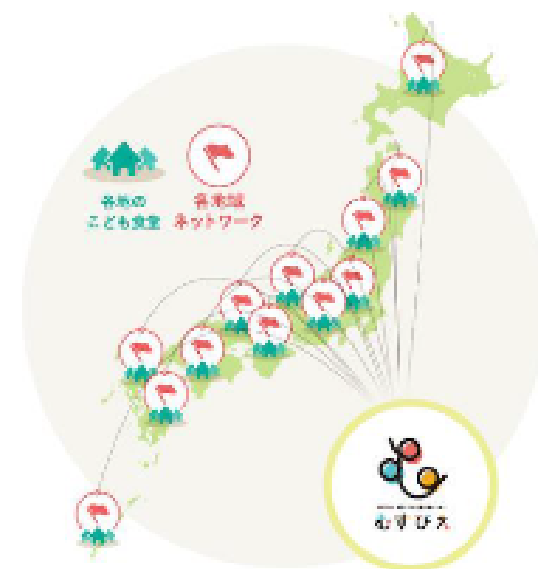
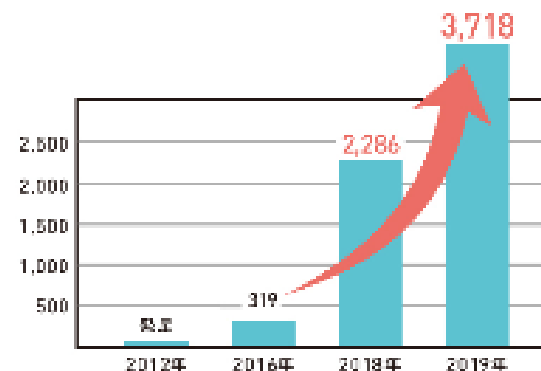
（参考：全国の小学校は約2万校、中学校は約1万校、児童館は4,000か所。）

こども食堂の認知は8割を超えている一方で、実際に行ったことある子どもは1割に満たないこともわかっている。

■むすびえ（理事長・湯浅誠） <https://musubie.org/>

当団体は、ビジョンである「全国に広がるこども食堂を通じて誰も取りこぼさない社会をつくる」ために、こども食堂が全国のどこにでもあり、みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整え、こども食堂を通じて、多くの人たちが未来をつくる社会活動に参加できるように活動している。

具体的には、こども食堂の実態を明らかにし普及・啓発する調査研究、各地域のこども食堂ネットワークを支援する地域ネットワーク支援事業、企業・団体とのこども食堂支援を行う企業・団体との連携事業を行なっている。





こども食堂を通じて、 こんな課題にアプローチできます

子どもの貧困

7人に一人は「こどもの貧困」と言われる日本で、こどもが一人でも行くことができ、無料または低額で食を提供するこども食堂の支援を通じ、貧困状態にあるこどものサポートを行うことに寄与することができます。また、様々な人が集う「地域の交流拠点」でもあるこども食堂では、機会や経験が乏しくなってしまうがちな子どもに、様々な大人たちとの遊びや関わりを持つことを通じて、広い視野をもつきっかけを届けることができます。さらに、手洗いの習慣、歯磨きの習慣など、基礎的な生活習慣についても学ぶ機会を届けることができます。

子ども・子育て・高齢者等の孤立

地域の子どもや大人たちと食事をする場であるこども食堂は、共働き家族の増加、ひとり親世帯の増加による子どもの孤立・孤食に対し、子育てしやすい社会づくりに貢献するだけでなく、「みんなでご飯を食べる」経験を届けることができます。また、高齢者のみの世帯も増加し、社会問題化する中で、地域のこどもと食事、交流をするきっかけを提供することができ、「顔見知り」が地域にいる状態を生み出すことで、安全な地域づくりにも資することができます。

13.9%

日本の子どもの貧困率は13.9%。一人あたり122万円/年で暮らす生活。OECD34カ国調査では、子どもの貧困率の平均は13.3%。（厚労省「国民生活基礎調査」より）

22.1%

週2～3回以上夕食を家族と食べていない子の割合（農水省H28「食育白書」より）



アルディージャができること

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



コロナ禍により、
全国の子ども食堂の活動が停止(停滞)

- ① 経済格差の拡大による子どもの貧困状態の悪化
- ② 地域の多世代交流拠点としての機能低下

アルディージャができること

スポーツを通じて、
協働者とともに、地域に新しい価値を共創

シャレン!

Jリーグ社会連携

- ① 子どもたちの健全育成に寄与
- ② 子育てしやすい安全な地域づくり

クラブ理念の推進

スポーツを通じて夢と感動をわかち合える、
より良い地域社会の実現に貢献します。



<活動実績①> あおぞら子ども食堂 with



■日時：2020年10月18日(日)11:00～14:00

■会場：大宮アルディージャ フットサルコート「オレンジコート ステラタウン」
(さいたま市北区宮原町1-853-1ステラタウン北棟)

■対象：子ども39人（家族19組） ※各子ども食堂登録者（一般募集なし）

□主催：さいたま市子ども食堂ネットワーク

□共催：大宮アルディージャ

□協賛：関東食糧(株)、JAさいたま、(株)明治

□協力：埼玉県、Jリーグ社会連携本部、NPO法人むすびえ





<活動実績②> アルディージャテラス@大宮一番街

■日時：2020年11月15日(日)11:00～13:30 ※ツエーゲン金沢戦@NACK 14:00k/o

■会場：大宮一番街商店街 ハッピーファームみやたけ前特設ブース (さいたま市大宮区宮町1-80)

■協同者一覧

□主催：さいたま市子ども食堂ネットワーク、大宮アルディージャ

□協賛：関東食糧(株)、(株)明治、ケアサポート(株)、アルディージャビジネスクラブ(ABC)

□協力：

大宮一番街商店街協同組合、おおみやストリートテラス@大宮一番街実行委員会、大宮ナポリタン会、アーバンデザインセンター大宮(UDCO)、ハッピーファームみやたけ、ディアボラ大宮店、埼玉県、さいたま市、金沢市、ツエーゲン金沢、Jリーグ社会連携本部、NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ





<活動実績②> アルディージャテラス@大宮一番街

① 出張子ども食堂 in 大宮一番街

さいたま市内の子ども食堂利用者 (50組100名)を、大宮アルディージャのホームゲーム (金沢戦/14時KO) にご招待！
当日は特設ブースにて、地元の町おこしグルメ「大宮ナポリタン」とコラボした特性オレンジ弁当を配布！



② キッズサポ限定!お菓子配布大作戦!!

アルディージャグッズを身につけたキッズサポーターを対象に、お菓子を配布！





<活動実績②> アルディージャテラス@大宮一番街

③ フードドライブ

各家庭の余剰食材を大募集!皆さまから頂いた食材はすべて「さいたま市子ども食堂ネットワーク」に寄贈し、さいたま市内の各子ども食堂へ配布いただきました。

また、対戦相手の金沢サポーターの方にも金沢グルメを中心に多くの食品を寄附していただきました。



<参加者の声>

親子で参加できるイベントなので非常に嬉しいです、10月のハロウィンイベントにも参加しました。子どもたちはお友達とサッカーができてとても楽しかったようで、試合観戦もとても楽しみにしていました。スタジアムの大きさにも大興奮で、「選手たちがカッコイイ!」と憧れの眼差しでピッチを凝視していました。



- 1 大宮アルデージャについて
- 2 Jリーグのシャレン（社会連携活動）
- 3 大宮アルディージャ版
「みんなのシン・みつプロジェクト」
- 4 **その他の社会連携活動**



「サッカー応援も、ノーマライゼーション」手話応援デー



■連携先・協働者

手話応援実行委員会/手話応援協賛企業/埼玉県/さいたま市/埼玉県内メディア/大宮アルディージャ選手会

■ノーマライゼーション条例とは

2011年3月、さいたま市が全国の政令指定都市に先駆け、

「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」を制定。（通称：ノーマライゼーション条例）

「サッカー応援も、ノーマライゼーション」を合言葉に、障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しむことを目的として、2006年よりスタート。一時中断期間をはさみながらも、2019年までのホームゲームで全11回の実施を数える。

2019年も約1,800名の大応援団で実施。手話が得意な方やそうでない方、サッカー観戦が初めてという方、アルディージャが大好きなファン・サポーターの方々も一緒に、健常者と障がい者の垣根をなくしてスポーツを楽しみながら、手話にふれあい、また手話によりスタジアムがひとつになることができる、大宮アルディージャならではの取り組みです。



「サッカー応援も、ノーマライゼーション」手話応援デー

■【映像】大宮アルディージャ 手話応援 2018 supported by 毎日興業株式会社
<https://www.youtube.com/watch?v=k91emfHS4io>



集合写真
※手話応援Tシャツ着用



手話応援の様子



Jリーグ名誉マネージャー
佐藤美希さん



手話応援啓発ブース



聴導犬ブース



キックオフキッズ
※大宮ろう学園 生徒

<関連活動> 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 選手訪問

大宮アルディージャに在籍した江角浩司氏（2006～2014/現育成部GKコーチ）が、ホームゲームで「手話応援」を見たことをきっかけに、「ろう学園の子どもたちに何かしてあげたい」という気持ちから、2010年より交流がスタート。現在は地元・さいたま市出身の大山選手を中心に、その志を受け継いだ選手たちにより活動が続けられています。



みんなで記念撮影



手話をつかって自己紹介



子どもたちと真剣勝負



試合後は笑顔でハイタッチ



子どもたちから
寄せ書きをいただきました



記念グッズをプレゼント



その他の社会連携活動 ～子ども虐待防止「オレンジリボン運動」～



■連携先・協働者

NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク/埼玉県/さいたま市/県内児童養護施設/大宮商店街連合会/大宮アルディージャ選手会など

■活動概要

子ども虐待防止の象徴であるオレンジリボンを広く周知することにより子ども虐待を防止し、「虐待のない社会をつくりたい」という意識を広げていくこと。2009年3月よりクラブカラーの「オレンジ」を通じて、埼玉県・さいたま市などと連携して普及活動を実施している。

■活動一例

- ・ 県内児童養護施設入所児童のホームゲーム招待（約350名/年間）
- ・ 全選手、スタッフ等によるオレンジリボンバッジの着用 【1】
- ・ 選手による啓発メッセージムービーの放映 【2】
- ・ 推進月間(11月)において、公式サイト内へ特設ページの開設
- ・ 啓発品の配布、啓発ポスター掲示、啓発バナーのピッチ周回
- ・ 場内大型映像装置を利用したPR活動
- ・ クラブマスコット「アルディ」による啓発イベントへの協力

【1】



【2】



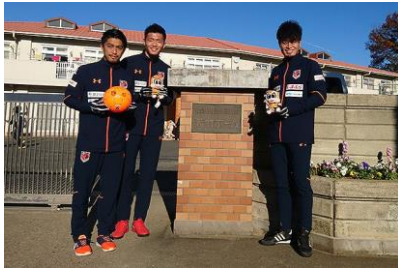


その他の社会連携活動 ～子ども虐待防止「オレンジリボン運動」～



<関連活動①> 選手会による児童養護施設訪問

大宮アルディージャ選手会がホームゲームに招待している児童養護施設の子どもたちのもとを訪問。児童虐待防止推進月間である11月を中心に実施しており、2020年は埼玉県内で育った選手の出身エリアを中心に、訪問施設の増数を検討中。



訪問の様子①



訪問の様子②



訪問の様子③



訪問の様子④

<関連活動②> 「オレンジの絆 アルディージャオレンジリボン基金」設立

2019年より新たに基金を設立し、オリジナルグッズやチャリティ販売を実施。大宮フリーマーケット実行委員会にもクラブが取り組むオレンジリボン運動にご賛同いただき、大宮銀座通り商店街で掲出している選手街灯バナーのオークション販売の売上金額とともに、ホームゲーム会場にて「NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク」吉田理事長へ寄付金を贈呈いたしました。



オリジナルグッズ&チャリティ販売の実施



選手街灯バナーのオークション販売を実施

売上金を寄付
総額 824,324円
(2019年度実績)



贈呈セレモニーの様子



大宮アルディージャをつかおう！



Jリーグをつかおう！

チャレンジ！

Jリーグ社会連携